

■ 「ちくま評論入門」解説——読解問題への過程

5 北山晴一「衣服という社会」

● 参考『学校制服の文化史-日本近代における女子生徒服装の変遷』【376N3/1】（北野高校図書館）

■ 目標

● 比較的長い範囲の内容を順序よく整理して記述する。

■ 追跡

- ① 人間はなぜ服を着るのか。
- ② 寒さを防ぐためとか、肉体を隠すためとか、むかしから主張されてきた。たしかに、衣服にそうした役割がないわけではないが、それは衣服の役割のほんの一部にすぎない。それだけなら、流行を気にしたり、デザインを考えたりする必要はないだろう。
- ③ 他方、最近はやりの考え方として、衣服は、かたちや色、素材で構成するゲームだという主張がある。こちらのほうは、個人の自由を過大評価して、逆に、社会規範のもつ強制力の存在を無視している。

まず問いが立てられる。しかし②段落の仮説も、③段落の仮説も否定。では？

- ④ ところが、衣服をめぐる問題のむずかしさは、なにを着るかなどという、一見、個人の自由に属するようなことから、実際には個人がひとりでは決められなくなっていることに起因する。たとえば、「きちんとした服装」ということばがある。人前に出るときには恥ずかしくない格好を、などもよくいわれる。これなどは衣服の選択がいかに社会化されているかの証拠であろう。

「衣服の選択がいかに社会化されているか」Ⅱ「社会規範のもつ強制力」に焦点が当たる。どんな服を着るべきか、社会が決めてくる。たしかに、学校での服装を思えばわかる。学校でなくても、コンビニならこれでいいけど、梅田まで出るならこのかつこはダメ、とか、どこから服装選択の強制力がかかっている。そのどこかをここでは「社会」という概念で呼んでいるわけだ。他人の目みたいなもの？ 自分の部屋で服を選ぶときに、他人はいないはずだから、他人の目を想定して、自分の服装を選択しているということかな。

- ⑤ 1衣服の選択が社会化されるとは具体的にどういうことなのか、ここで考えてみたい。
- ⑥ ミメティズムという語がある。ある種の動物は身を守るために環境の変化に応じて外見を変化させ

- 1/8 -

る。日本語では擬態と訳されているようだが、保護色はその代表である。ミメティズムのもうひとつの意味は、無意識に他人の真似をしてしまう、ということである。人間の場合、このようなミメティズム行動は、おもに衣服を通して行われる。ただし、動物とちがって、人間の心はかなりわがままにできている。他人と同じでは気がすまないという、反ミメティズム的な衝動ももっている。

「無意識に他人の真似をしてしまう」。なるほど、他人が着ているような服を着る。男子高校生は男子高校生が着るような服を着る。女子高校生は女子高校生が着るような服を着る。高校生がかたまつて歩いていると、いかにも高校生っぽい形・色合いの統一感がある（制服やユニフォームとちがうよ。私服で）。保護色のように、お互いに無意識に他人の真似をしてしまうわけだ。そのとき個は集団に埋もれる。しかし一方、「他人とは違うかつこがしたい」という欲求もある。あるでしょ？ なんかアクセサリーをつける。髪飾りをしてみる。爪を塗ってみる。「かわいいー」「どこで買ったん？」とかいうてほしいな、と。思うでしょ？ それぞれ。

⑦ 文明社会のなかで、衣服が、文化となり、経済活動の重要な構成要素となり、あるいは社会秩序の不可欠の要素となったのは、人間がミメティズムと反ミメティズムの二つの傾向を併せもっているからである。しかし、この二つの傾向が自由を実現されるようになったのは、じつはそんなに古いことではない。他人と同じ格好をしてもよいし、他人と異なる格好をしてもよい。そのことについてだけれども規制を受けない。このようにだれもが自分の好きな格好ができる、いわゆる「服装の自由」は、生活規範（エチケット）の階層化された身分制社会の枠組みとは相容れないものだったからである。ヨーロッパの場合、服装の自由が公に認められ、明文化されたのはフランス革命のときである。

歴史的に来ましたね。同じでありたい／同じではイヤ。どっちもありだよ、ってなったのは、フランス革命のときなのか――。

⑧ さて、身分制社会が消滅し服装の自由が確立されたときに、どんな状況が出現したのであるうか。各人が気ままな服を着た自由で多様な豊かな光景が出現したのかといえ、まったくそうはならなかった。多くの人々にいつのまにか類似の服装をさせてしまう、流行という名の新現象が発生したからである。しかも、この新現象は、生理的には必要がないと考えられるものまで買わせてしまう、そういう心理的な強制力を備えた動きなのであった。

「流行」というのは、「同じでありたい」心理が生むものなんやね。強制力というから

- 2/8 -

には、「同じであれ」という命令に近いものなんやね。「いまどき、そんなん着てるやつおらんで」とかいわれたら、恥ずかしいもんね。むりしてでもお小遣いから新しい服、買わないとね。

⑨ 流行現象がフランス革命以前になかったわけではない。一八世紀はじめのパリでは、「衣服がすたれる速さは、花のしおれるのより速い」とか、「無数の店が軒を並べ、必要のない品物を売っている」とかいわれていた。しかしながら、流行だからといって必要のない品物まで追い求めるような行動は、少数の上流階級の人々にしかできない贅沢であった。流行現象が全社会的に広まり、人々の衣生活ばかりか行動規範全般を支配するようになったのは、一九世紀になってからのことである。

流行は「大衆化」し、二十一世紀の今や、「流行」はありとあらゆるところに生まれている。流行語大賞とか、ツイートランキングとか、何が流行しているかを逐一伝えてくるものがたくさんあるから、流行は一気に広まる。もの売る側はいかに流行をつくるか、いかにいらんものを（笑）ほしいと思わせるかで勝負する。

⑩ ところで、身を装う自由が確立されただけでは、衣生活の発展も流行現象の普及も不可能であった。個人主義的な、かつ文化的な枠組みの登場が不可欠であった。つまり、個人のアイデンティティは身体表現を通して具体化される、という意識が一般化する必要があったのである。個人のアイデンティティが身分や職業といった社会的な枠組みに依存していた時代には、身を飾る必要はあまりなかった。そうした時代であっても、個人のあいだで差異競争がなかったわけではないが、それは小さな集団の域を超えて広がるものではなかった。そのような社会においては、流行は全社会的な現象になることはできない。

⑪ 自分を社会のなかでいかに位置づけるか。衣服の流行には、このように自己の社会的な位置づけにたいする強烈な欲望の存在が必要とされる。

「個人のアイデンティティは身体表現を通して具体化される、という意識が一般化する必要があった」は、「自分を社会のなかでこう位置づけたいという強烈な欲望の存在が必要だった」と同じこと。わたしやおれって人間が、どんな人間か、おれはおれだ、と確認する（アイデンティティをもつ）ためには、おれはどんな身体の間人か、を自分で求め、確立し、それを表現しないといけない。——とこう書く、しんどそうやね。

おれはさむらい、というのでよかった時代なら、さむらいらしく、百姓らしくしてればよかった。どんなかつこうをしようか、と悩まなくていい。鏡の前で着替えなくてもいい。

⑫ 社会的な枠組みに依存していた時代は、心理的にはむしろとても生きやすい時代だったのではないかと思う。自分で努力しなくても、すでに伝統や習慣といった出来合いの規範が用意されていたからである。それは、制服があれば「明日、なにを着たらいいの」などと迷わなくてもすむのと同じである。

**読解問題 1 「衣服の選択が社会化されているとは具体的にどのようなことなのか」とあるが、それに対する答えをまとめなさい。**

ここで考えてみよう。読み取った内容を、抜き出して、整理してみよう。どうやって服を選んでいいのか、と問いを置きなおしてみるといい。

- ・他と同じでありたい／他と同じではイヤという心理が、服を選ばせていた。
- ・流行に見られる、同じであれという心理的強制力が、服を選ばせていた。
- ・自分を社会のなかでこう位置づけたいという欲望が、服を選ばせていた。
- ・昔は、身分や職業といった社会的な枠組みによって、服が決まっていた。

どうまとめるか。答えやすいように「衣服の選択が社会化されている」という文言自体を答えるの形に先に変えておくという手がある。

「人が衣服を選択するとき、社会的な問題が関係しているということ。」  
こうすると、「社会的な問題が関係している」ってどういうこと？と問いが変わる。そこにさっきのまとめを具体的な内容として補足する。

整理の仕方だが、服装選択が自由ではなかった時代と自由になった時代に分けて書かれていることに注意。どっちは社会的な問題が関係していて、どっちははしていない？——じゃないよね。どちらも、（社会（他人））が関係している。自由になる以前と以後では関係の仕方が変わるけど、関係しているのは同じ。（仏革命の）以前と以後の違いをまず鮮明に対比させることが大事。

- ・以前——社会（身分・職業）的に服装は決まっていた。
- ・以後——社会的な位置を自分で示すために自分で服装を決めなくてはいけない。

この「自分で決めなくてはいけない」枠組みの中で、他と同じでありたい、同じではイヤだという心理や、同じでありたい心理が生み出す流行の中で服を選択するようになっていく。——こういった組み立ての順番を練る力が必要。粘り強く訓練しよう。

**【解答例】**人が衣服を選択するときは、常に社会的な問題が関係している。服装の自由が認められる以前は、身分や職業といった社会的な枠組みによって、服装が決まっていた。また、自由が認められた後も、服装が自分を社会のなかでどう位置づけるかを表すという点で、選択には社会的な観点の関係している。自由に選ぶ中では、他と同じでありたいと

か、逆に、同じでは嫌だという心理が働いたり、流行に見られる、同じであれという強制力が働いたり、常に社会的な意識が選択に関係している。(221字)

⑬ 一七八九年、フランス革命後の八月二六日に公布された人権宣言は「人間は法の前にて生まれながらにして平等である」と謳っている。この人権宣言に代表される平等思想は、身分や職業などによる社会的な差別の合法性を否定し、固定的な社会規範から人々を解放したが、この解放は、同時に、社会のネットワークから個人を切り離してしまう状況をも生み出した。それは、人間がバラバラで匿名の存在になってしまったこと、いわば2個人のアトム化状況が出現したことを意味していた。そして、このようなアトム化状況は、多くの人間の心に「いったい自分はなにものなのか」というアイデンティティの危機をもたらすことになった。

## 読解問題2 「個人のアトム化状況」とはどのようなものか、説明しなさい。

形式的には「人間がバラバラで匿名の存在になってしまったこと」を指す。「それは」が受けているものをたどれば、「社会のネットワークから個人を切り離してしまう状況」。二つあわせて、

【解答例1】「社会のネットワークから個人が切り離されてしまうこと」によって、人間がバラバラで匿名の存在になってしまったこと。(54字)

もし、八〇字で、といわれたら、何を足す？ 何によってそれが生じたか、を足す。

【解答例2】「平等思想が固定的な社会規範から人々を解放したことが、社会のネットワークから個人を切り離さず結果を生んでしまい、人間がバラバラで匿名の存在になってしまったこと。」(79字)

たんに字数を増やせばいいのではない。内容が多くなると、構文を組み替えたり、文を切ったりする必要が出てくる。あれこれ考えているうちに、おかしな構文のまま書いてしまうことのないように注意。

⑭ しかし、人間は危機的状況のなかで腕をこまねいているわけではない。こうした危機(「いったい自分はなにものなのか」というアイデンティティの危機)の解消をめざす動きが、すぐに二つの方向であらわれた。

⑮ ひとつは、他者とのちがいを強調することで自己のアイデンティティの表現をめざそうという動きである。自己が自己であるためには、自己の独自性をなんらかのかたちで具体的に示さなければならぬ。しかも、そのことを他者に認めてもらわなければ意味がない、と、そんなふうを考える方向性である。ところが、いくらそんなふうに向志したとしても、現実の個々人のレヴェルでは、各人がそれぞれ

に独自性を備えた真の個性など、そう簡単に実現できるものではない。文化的な蓄積に基づく確信なしには自己の独自性など發揮することはできないし、また社会的な認知も得られないからである。ふだん粹で通っている人物が変わった格好をするならば粹で通るが、野暮な人間が変わった格好をしたところで、野暮の評判を重ねるだけではないか。

⑯ いっぽうで、このような独自性の追求とは逆の行動もあらわれた。すなわち既存の集団への同化を求める動きである。独自性を求めて苦勞するよりも、多くの隣人が優れていると判断するような価値を採用したほうがはるかに楽だからである。

⑰ とところで、ここで述べたような差異化の必要と同化への誘惑と、その両方を巧みにかわしてくれる装置があれば、楽に自己のアイデンティティ危機を乗り切れるのではないか。一見矛盾する差異化の必要と同化への誘惑の両方を、他者にも自分にもそれと意識させることなく上手に調整してくれる、そんな社会装置はないものか。そんな虫のよい願望を実現してくれる『魔法の薬』、それがモード現象なのである。自分よりなんらかの点で上位にある個人や集団の独自性を模倣し、いっぽうで自分より下位にある個人や集団とのちがいを強調する。差異化のように見せてじつは同化へのベクトルでしかない、そういう機構に乗って動いている社会装置、それがモード現象なのである。

「自分は何者か」に対して、「やつらとは違うオレ」でいくか、「このひとたちと同じボク」でいくか。つっぱつてくか、でれつといくか(そーゆーことかな?)。

「魔法の薬」モード現象」ってどんなものなのかよくわからないが、とにかく、機能としては、「上位にある個人や集団の独自性を模倣」、「下位にある個人や集団とのちがいを強調」するという。強いヤツにでれつとして、弱いヤツには「オレはおまえらとは違う!」って言い放つ。「じつは同化へのベクトル」||じつは上位の集団に同化したいというケチな欲望にのっかってるのが「モード現象」なるものなんだ、と筆者は手厳しい。

⑱ 歴史のなかに投影してみると、どうなるか。モード現象が普及したのは、一九世紀前半からである。当時は、まさしく身分や職業の枠組みが否定され、だれもが社会的な上昇をめざすことができるようになった時代である。しかも、上流階級の生活様式が視覚メディア、たとえばグラビア雑誌、写真、ショーウィンドウ、ポスターなどを通して公開されるようになった時代でもある。このような状況で、上昇する市民の多くは、上流階級の生活様式を採用した。

「モード」の説明は脚注にもあるが、本文で判断するならば、「生活様式」のことだとわかる。かっこいいファッション、家具、ライフスタイル。オレも、アタシも、上流にあこがれる。せめて、かっこいいだけでも上流っぽくやるかな。

⑭ しかし、現実には文化的な蓄積を要するエリートたちの生活様式をそっくり模倣するなど、即席にできるものではなかった。模倣することができたのは、だから即物的な面においてだけ、かたちだけ、表面だけのものにすぎなかった。モード現象の主たる担い手だった上昇する階級に味わうことができたものは、せいぜい上流階級幻想という自己暗示的な代物でしかなかったのである。しかしながら、こうした幻想こそが近代の消費社会のエネルギー源であったことを、忘れてはならない。

中身は庶民のままだけど、身につけるものやお金で買えるものは、まねできる。なら、買おう。上流に同一化しよう↓上流階級幻想↓買ってまねしよう↓物が売れる↓モード現象。タレントの着ているものっぽいものを買いたいという心理も同じ。売るほうは、その幻想を利用して、実際に人々が買えそうなレベルの商品を開発しようとする。

### 読解問題3 「モード現象」が「魔法の薬」と呼ばれるのはなぜか、説明しなさい。

難しく考えないで、書いてあることを整理する。☆傍線部を伸ばす。次の範囲を組み替える。

「ここで述べたような差異化の必要と同化への誘惑と、その両方を巧みにかわしてくる装置があれば、楽に自己のアイデンティティ危機を乗り切れるのではないか。一見矛盾する差異化の必要と同化への誘惑の両方を、他者にも自分にもそれと意識させることなく上手に調整してくれる、そんな社会装置はないものか。そんな虫のよい願望を実現してくれる3魔法の薬、それがモード現象なのであった。」

- ・モード現象は、そんな虫のよい願望を実現してくれるから。
- ・モード現象は、差異化の必要と同化への誘惑の両方の願望を満たしてくれるから。

【解答例1】モード現象は、差異化の必要と同化への誘惑の両方を満たすことによって、自己のアイデンティティ危機を乗り切れるようにしてくれるから。

これで一応書けた。なんで薬なの？の答えだから、文末は「危機を乗り切れるようにしてくれる」に。モード現象は、アイデンティティの危機に効く（ように感じられる）薬。ほんとに効くかどうか、知らんけど。

ただ、これだけでは、モード現象がどのようにして差異化の必要と同化への誘惑の両方を満たしてくれるのか、わからない。そしてもう一つ、「自己のアイデンティティ危機」とはどのようなものか、どうすればそれが克服されるのか、もわからない。もちろんその

説明は本文にあるのだから、入れるべきだ。答案の流れは、危機がこのように解決するか、という形に。

・自己のアイデンティティの危機は、自分が他と違った独自性を持っていると感じられることよって解決する。

・モード現象は、上流階級の生活様式のまねをすることによって、自分が上流階級と同一化し、ある独自性を持ったような幻想を抱かせてくれる。

【解答例2】自己のアイデンティティの危機は、自分が他と違った独自性を持っていると感じられることによって解決する。モード現象とは、上流階級の生活様式のまねをすることだが、それによって、自分が上流階級と同一化し、ある独自性を持ったような幻想を抱かせてくれる。このように、モード現象は、差異化の必要と同化への誘惑の両方を満たすことによって、自己のアイデンティティ危機を乗り切れるかのように感じさせてくれるから。(195字)

「乗り切れるかのように感じさせてくれる」というのは、それはあくまで「魔法」だという含意がある。だって、ほんとは、上流じゃないんだから(笑)。

### 読解問題

- 1 「衣服の選択が社会化されているとは具体的にはどういうことなのか」とあるが、それに対する答えをまとめなさい。二五〇字程度。
- 2 「個人のアトム化状況」とはどのようなものか、説明しなさい。八〇字程度。
- 3 「モード現象」が「魔法の薬」と呼ばれるのはなぜか、説明しなさい。二百字程度。

### 発展問題

自分が何かの衣服を選択する場面を具体的に思い浮かべ、そのとき、どのような意識が働いているか考えなさい。その実例と本文の議論を重ね、自分は自分らしさをどのように捉え、実践しようとしているか、論じなさい。

●重要語「アトム化」＝アトムは原子。人間が、原子のように、個々バラバラになっっていくことをいう。人間がその個を尊重されず、「何々家の長男」といった属性に縛られた扱いしか受けないのであれば、自由がなく苦しい。しかしイエやムラを離れ、一人の個として生きていくとなれば、自由ではあるが、誰も助けてくれず、不安である。「アトム化」といった言葉が使われるのは、もっぱらその状況の問題性を取り上げたいとき。自由になつたというより、バラバラでどうしよう、という状況を指して使われる。